大好き★出雲！

よすみちゃん

季刊

弥生の出雲王に出会える

出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第 26 号 （2017 年 7 月）

★来館者３０万人を達成！

平成22年4月29日に開館して以来、当館は、地元の皆さまに愛される博物館を目指して運営してまいりました。

4月30日、来館者30万人を達成いたしました。

30万人目となった出雲市在住の安立瑠心さんは、この日開催中の「出雲弥生の森まつり２０１７」を楽しむために、ご家族で初めて来館されたそうです。これを機会に、弥生の森に遊びに来ていただくことを願っております。

皆さまのご来館を心からお待ちしております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

来館者 30 万人達成のようす

★企画展

「解明！古代の『出雲郡』 ―その始まりから復古まで―」

7月15日（土）～9月25日（月）

【入場無料】

「出雲郡」は古代の出雲国を構成した九つの郡（意宇・島根・秋鹿・楯縫・出雲・神門・飯石・仁多・大原）の一つで、現在の出雲市斐川町から大社町にかけての地域に相当します。

この地域では、後谷遺跡・杉沢遺跡群・青木遺跡・鹿蔵山遺跡など、注目度の高い古代の遺構や遺物が数多く見つかっています。そのため、これまでは個々の遺跡で取り上げられることが多く、古代「出雲郡」として総合的に展示されることはありませんでした。

今回の展示で、初めて陳列するものに後谷遺跡・稲城遺跡・小野遺跡の資料があります。

これらの遺跡は出雲郡家（出雲郡の役所）に関わる遺跡とされてきましたが、それを裏付ける考古学的な資料は確認されていませんでした。この企画展に際して、これまでの発掘調査で見つかった資料を整理したところ、「大殿」「（天平）十三年」などの郡家の存在に関わる文字が記された土器を確認しました。そのうち、天平の年を記した土器は、平城京跡を除くと、全国でも2例目の発見です。さらに、緑釉陶器といった当時では高級な焼き物なども見つかっていて、これらの遺跡が出雲郡家の一部であった可能性が高まりました。

また、平安時代後半の土器も多数確認できました。当時の文書によると、遺跡の周辺は「出西本郷」と呼ばれ、斐川平野における出雲大社領の開発拠点であったとされています。多数の土器は、遺跡の周辺がその拠点であったことを裏付けるものと言えます。しかし、この頃に「出雲郡」は消滅し、遺跡の周辺に存在したのは郡家から性格を変えた施設だったようです。

このように、後谷遺跡・稲城遺跡・小野遺跡の資料から古代の「出雲郡」の消長が見えてくる展示となっています。（髙橋　周）

「倉」と記した土器
（後谷遺跡）

★ギャラリー展
「伝説の教科書を作った郷土の偉人 ～塩野直道物語～」

6月21日(水)～10月16日(月)
【入場無料】

昭和9年（1934）、今日の日本の教育に大きな影響を与える伝説の教科書が登場します。『尋常小学算術』、通称「緑表紙」で知られる教科書は、国内のみならず世界でも高く評価されました。この教科書の編集には、簸川郡園村（現出雲市東園町）出身の塩野直道が携わっていました。

直道は明治31年（1898）に、代々庄屋や地主を担う塩野家の長男として誕生します。その後、西園小学校（現長浜小学校）、杵築中学校（現大社高校）で学び、第三高等学校（現京都大学総合人間学学部）を経て、東京帝国大学（現東京大学）物理学科へ進みます。東大卒業後は、松本高等学校（現信州大学）の教授になりますが、大正3年（1924）に文部省図書局で教科書の編集や審査をする図書監修官に就任します。このとき直道が責任者として編さんしたのが、伝説の教科書「緑表紙」です。

文部省時代の塩野直道（1935）
「随流導流」啓林館より

「緑表紙」は小学一～六年生用が発行されましたが、特に低学年の児童用にはカラーの挿絵がふんだんに用いられ、「絵本のような教科書」と称賛されました。また、四年生用に盛り込まれた珠算では、使用するそろばんを「四つ珠そろばん」と明記したことから、以降、「五つ珠そろばん」ではなく「四つ珠そろばん」が一般に普及し、今日に至っています。

その後直道は、金沢高等師範学校の校長を経て、教科書出版社の啓林館で代表取締役を務め、昭和44年（1969）に急逝するまで、教科書監修に心血を注ぎます。

今回のギャラリー展では、文部省の役人、教育者、啓林館の取締役といった直道の足跡をたどり、日本の算数教育に残した彼の大きな功績に、スポットライトを当てます。

（三原一将）

★市民ギャラリー
展示作品募集中

博物館では、出雲市内で活動されているみなさまの作品や成果を発表する場として、「市民ギャラリー」を設けています。ぜひご利用ください。

使用料金
無料

展示期間
原則　7日間（延長可）
※準備及び撤去は休館日

貸出備品
・展示用
パネル6枚
・長机6台
・イーゼル3台

※詳しくは、博物館までお気軽にご相談ください。

県高文連新聞専門部　新聞作成
コンクール作品展　準備のようす

★博物館アテンダントコーナー
「西谷の丘」からみる夕日

こんにちは、アテンダントです。

皆さんは「西谷の丘」からの夕日を、ご覧になったことがありますか？

夕日と言えば、私たちが住んでいる出雲が「日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～」というストーリーで「日本遺産」に認定されました。

出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」「日御碕」など島根半島西端の海岸から見ることのできる夕日の美しさに心をうばわれる方々も多いと思いますが、弥生時代に出雲王が葬られた西谷3号墓から見る夕日もとっても綺麗です。

亡き王たちも、夕日に祈りを捧げ、人々の穏やかで豊かな明日を願っていたのかもしれません。

ここ西谷の丘からの夕日に思いを馳せ、古から紡がれてきた歴史の風を感じてみませんか。

西谷3号墓から見た夕日

★祝！日本遺産認定
「日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～」

平成29年4月28日、出雲市が文化庁に申請していた夕日にまつわるストーリー「日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～」が、「日本遺産」に認定されました。

●日本遺産とは

「日本遺産」は、日本各地で受け継がれてきた、歴史的な魅力や特色を語る「ストーリー」を文化庁が認定するもので、平成27年から始まった取組です。

世界遺産や国宝などの指定文化財は、一つひとつの文化財の価値を評価して保全することを目的としていますが、「日本遺産」は、地域に点在する有形・無形の文化財をストーリーでつなぎ、指定・未指定を問わず「面」として一体的にPRするものです。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産
公式ロゴマーク

茜色に染まる夕暮れの稲佐の浜

今年度は、全国から申請のあった79件のストーリーの中から、出雲市も含めて17件のストーリーが認定されました。島根県内では一昨年の津和野町、昨年の雲南市・安来市・奥出雲町の共同認定に続いて、3年連続、3件目の日本遺産となります。

出雲市では今回の認定を受け、魅力あふれるストーリーを広く情報発信し、地元の方々に興味を持って現地へ行ってもらったり、より多くの観光客に来ていただけるよう、様々な地域活性化事業を進めていきます。

●認定ストーリーの概要

島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかし、この海岸線に夕日にちなんだお社である「天日隅宮（あめのひすみのみや）」（出雲大社）と「日沉宮（ひしずみのみや）」（日御碕神社）が祀られていることはあまり知られていません。

古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されていました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。

海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。

ストーリーの全文は、出雲弥生の森博物館ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

出雲日御碕灯台の夕日

●構成文化財

「日が沈む聖地出雲」のストーリーは、稲佐の浜、出雲大社、長浜神社、日御碕神社、大土地神楽（おおどちかぐら）、筆投島（ふでなげじま）、出雲日御碕灯台、日御碕神社の神幸神事（みゆきしんじ）など、23件の有形・無形の文化財によって構成されています。

大土地神楽

日御碕神社（日沉宮）

日御碕・経島

宇龍・権現島

●速報展示

出雲弥生の森博物館の速報展示コーナーでは、認定された日本遺産を紹介するパネル展を開催しています。ぜひご覧ください。

展示期間　7月31日（月）まで

（梶谷淳司）

★講演会・講座のご案内

企画展関連講演会　【無料】

**「解明！古代の『出雲郡』
―その始まりから復古まで―」**

7月16日（日）

**「『出雲国風土記』は
中世出雲に存在したのか？
―新発見の出雲郡建部郷・
波迦神社の棟札をめぐって―」**

【講師】髙橋　周（当館）

8月6日（日）

**「神の時間 ―『出雲国風土記』の
出雲郡をめぐって―」**

【講師】荻原千鶴氏
（お茶の水女子大学名誉教授）

8月20日（日）

「古代出雲国と『郡的世界』の実像」

【講師】森　公章氏
（東洋大学教授）

出雲弥生の森博物館職員リレー講座

9月30日（土）

**「出雲に生きた縄文人の足跡
―京田遺跡の発掘調査から
広がる縄文時代の世界―」**

【講師】幡中光輔（当館）

●受講料　300円

※いずれも14時～16時
事前申込みが必要です。

★博物館イベントのご案内

藍の生葉染め体験教室

8月11日（金・祝）9時30分～12時

●場　所　たいけん学習室
●募集人数　20人　●参加無料
※事前申込みが必要です。
汚れてもよい服装でご参加ください。

将棋フェスティバル

7月30日（日）

「プロ棋士指導対局」
9時～12時

「第7回　里見香奈杯争奪
出雲弥生の森ジュニア将棋大会」
13時～17時

（当日の見学は自由です。）

〔問〕大会実行委員会事務局
【電話 21-7580】

弥生の森お月見コンサート

9月23日（土・祝）18時～

秋の一夜、お月見と素敵な演奏で癒しのひとときをお過ごしください。　（弥生の森おおつ主催）

前売券500円・当日券700円
（中学生以下無料）
8月上旬から発売予定。

〔問〕大津コミュニティセンター
【電話 21-0172】

★館長古来夢（こらむ）

4月から館長となり、弥生の森まつりでは大津小学校6年生のみんなに「おおつの歴史」について話をさせてもらいました。鋭い質問にたじたじとなり、大汗をかきました。大津の子たちがみせた学ぶ姿勢は頼もしかったです。

「学び」について私には忘れられない思い出があります。25年以上前に行ったカンボジアでのことです。1994年の彼の地は、未だポルポト派が健在で治安も悪く、アンコール遺跡群の中を武装兵士が警備するような状況でした。

出発前にクメール語会話集を入手してカンボジアの言語を覚えようとしましたが、カセットテープから流れるその言葉は私の耳には「鳥の鳴き声」としか聞こえません。『日本書紀』の中に外国の人の言葉を「韓（から）さえずり」と表現してあったのが納得できました。

それでも会話集は現地まで持って行きました。ある日、食堂に入りその本をテーブルの上に置くと、10代半ばくらいの店の女の子が、その本を見つけるや手に取って読み始めたのです。

一文字一文字、注文を取るのも忘れて読みふけっています。文字を読めるということがうれしいのでしょう、口もとに浮かんだ笑みが頬へと広がっていきました。幼いころは戦乱で学校に行けず、ようやく学びの場を得るだけの平和が訪れたのだ、と容易に察せられました。

2年後に現地を再訪すると、学校へ通う生徒たちが制服を身に着けるようになっていました。その姿は学びの希望にあふれ、ほんとうに輝いていました。（花谷　浩）

（発行）出雲弥生の森博物館 2017年7月
〒693-0011　島根県出雲市大津町2760
(TEL)0853-25-1841 (FAX)0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
●入館料 / 無 料
●開館時間 / 9:00～17:00
（入館は16:30まで）
●休館日 / 火曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始